

「内科」後期研修カリキュラム

1 研修医の資格について

2年間の卒後初期研修を修了した者とする。

2 研修内容について

- 1) 患者を全人的に診ることができるバランスのとれた臨床内科医になるために、基本的な臨床能力（知識、技能、態度、情報収集力、判断能力）を修得する。
- 2) 日本内科学会認定内科医を目指し、内科全般を研修する。2年目からは内科一般診療に加え専門的な分野（消化器、循環器、呼吸器）の研修も行う。

3 研修期間について

卒後初期研修を終了後の3年間とする。

・一般目標

- 1) 医療人として必要な基本姿勢・態度を身につける。
- 2) 一般内科医としてプライマリーケアや救急診療を正しく行える能力を身につける。
- 3) 内科学全般を広く理解し、総合的診療能力を身につける。
- 4) 患者およびその家族に病状を説明し、理解を得た上で診療に必要な検査・治療を実施できる。

・到達目標

内科全般

- 1) 内科的な問診、身体診察ができる。
- 2) 1人で救急患者の診察ができ、適切な検査指示と入院適応かを判断できる。
- 3) コメディカルや他科の医師とともにチーム医療ができる。
- 4) 初期研修医の指導ができる。

消化器疾患

主な消化器疾患の病態生理，臨床像、治療法を理解し、診療を自力で行えるようにするとともに、救急疾患にも対応できるようにする。

- 1) 上部、下部内視鏡検査および内視鏡治療が行える。
- 2) 腹部超音波検査が行える。
- 3) 内視鏡による胆膵検査および治療の適応、検査所見を理解し、実技を修得する。
- 4) 消化器癌に対する治療法の選択、適応が判断でき、実施できる。
- 5) 肝癌に対する集学的治療（ラジオ波灼術、肝動脈塞栓術、動注化学療法、腫瘍内局所注入法）の適応、検査所見を理解し、実技を修得する。

6) 肝臓病治療法の選択、適応が理解でき、実施できる。

循環器疾患

すべての循環器疾患を診察できる能力を身につけること

- 1) 基本的検査（心電図、心臓超音波検査、運動負荷心電図、ホルター心電図）を実施し、結果を判定できる。
- 2) 循環器疾患に対し、プライマリーケアから慢性期までの対応、管理ができる。
- 3) 心臓カテーテル検査を修得する。
- 4) 心臓カテーテルによる治療を指導医の下で実践し、経験をつむ。

呼吸器疾患

呼吸器疾患の特性を理解し、診断に必要な検査・診断・治療技術を修得する。

- 1) 呼吸器系の解剖・生理を理解し、説明できる。
- 2) 呼吸器疾患について基本的身体診察法を修得し、診断・治療のために必要な情報をえられる実力を身につける。
- 3) 慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、細菌性肺炎、非定型肺炎、肺がんなどの主要な呼吸器疾患について、典型的な画像の特徴を説明できる。
- 4) 気管支鏡検査ではファイバーの操作になれ、BAL、TBLBまで施行できる。
- 5) 人工呼吸、非浸襲的陽圧換気療法の適応と操作方法を理解する。
- 6) 在宅酸素療法の導入、管理ができる。
- 7) 胸腔ドレナージができる。
- 8) 胸膜癒着術ができる。
- 9) 人工呼吸器管理について、導入から離脱まで、患者の状態に合わせ器械設定ができ、全身管理ができる。

血液疾患

臨床血液学の知識を身につけ、血液疾患の診療の基礎を修得する。

基本的な手技（骨髄穿刺など）が安全に施行できる。

- 1) 主な血液疾患の基礎的な知識を修得し、鑑別すべき疾患を挙げることができる。
- 2) 造血器悪性腫瘍の鑑別診断ができ、治療方針を決定することができる。
- 3) 癌化学療法に伴う副作用を知り、適当な対応ができる。

また内科地方会などの学会で症例報告や研究結果を発表する。

．修練方略

より高い専門性を身につけるために当院だけの研修では不十分の場合は、徳島大学病院あるいはその関連病院で研修する。